ハットトリックを達成した赤嶺(中央)。首脳陣の期待にも見事応えてみせた(撮影・岩田陽一)

JR東日本カップ 2003 第77回関東大学サッカーリーグ戦(前期) 1部リーグ 第七節

KOMAZAWA × TSUKUBA

駒澤大学6－4筑波大学

負けなしの駒大が首位ターン！ 接戦制し破竹の6連勝！！

新生駒大がみせた収穫と課題…

開幕前、さまざまな不安要素を抱えていたものの、一年生の活躍や勝負強さを見せリーグ戦前期最終節を首位で迎えた駒大。昨年、最終節まで優勝を争った筑波大との一戦は天王山と呼ぶにふさわしい白熱したゲームとなった。

駒大は立ち上がりからこの日トップ下で起用された**中後**を中心に積極的に攻め上がり、得点のチャンスを伺う。そんな姿勢が実を結んだのが前半14分。**中後**が倒されて得たFK。**橋本**の左足から放たれたボールはきれいな曲線を描き筑波大ゴールへ。40メートルはあろうかというFKを**橋本**が決め意外な形で駒大は先制点を得る。しかし、その5分後、筑波大・**植松**が放ったシュートを**牧野**がキャッチミス。こぼれ球を**鈴木**に押し込まれ、あっさりと同点に追いつかれてしまう。その後試合は激しさを増し、駒大がセットプレーからチャンスを作れば、対する筑波大も素早いサイド攻撃を仕掛ける。そんな均衡を破ったのは一年生2トップの活躍でここ2試合控えに甘んじていた**赤嶺**だった。43分、**中後**からの絶妙なパスを受け、「結果を出したかった」という**赤嶺**は落ち着いて右足でゴールに押し込み貴重な追加点を奪う。その後、**赤嶺**は前半終了間際にも得点を挙げ、駒大は2点のリードでハーフタイムへ。

前半の勢いそのままに、主導権を握りたい駒大だったが後半開始早々に失点を許してしまう。**町田**のシュートを**牧野**が一度はセーブするものの**岡田**に決められ一点差とされてしまう。

「後半立ち上がりの失点がなかったら残りの展開も違うものになっていたかもしれない」という鈴木の言葉が表すとおり、その直後に**赤嶺**がハットトリックとなる4点目を決めるが立ち上がりの失点からなかなか立て直せない駒大は52分、66分と筑波大に得点を許し、再び同点に追いつかれてしまう。そんな嫌な流れを断ち切ったのは、またしても一年生2トップのコンビプレーであった。**原**がドリブルで市船時代の先輩・**阿部**をかわし、GKと交錯。こぼれたボールを**赤嶺**に代わって投入された**藤宗**が